

# 商店街の空き店舗活用

人気アニメ「らき☆すた」の舞台として多くのファンらが訪れる久喜市の鷺宮神社近く、商店街の空き店舗を活用して簡易宿泊所を開設する計画を、同市在住の立正大3年生、若林福成さん(20)が進めている。鷺宮地域の移遷などを紹介するギャラリーも併設する予定で、「アニメで地域をもっと元気に」と、10月のオープンを目指している。

## 「らき☆すた」巡礼の宿

若林さんは大のアニメ好きで、美少女キャラクターなどの「オタク文化」で地域活性化を図る事業を興そうと、昨年9月に合同会社「福成」を設立。今回の簡易宿泊所も、その一つだ。鷺宮地域に遠方から訪れる「らき☆すた」ファンの、「近くに泊まる場所がなくて大変」との声を耳にしたのがきっかけだ。

### 鷺宮神社近く／来月開業目指す

地元の鷺宮商工会によると、遠方のファンの多くは、車の中や、近くのインターネットカフェなどに寝泊まりしている。年末年始には地元住民が、集会所を貸し出すなどの対応をとってきた。近隣の春日部市や幸手市にある「らき☆すた」の舞台に「聖地巡礼」と称して足を延ばすファンも多いという。

こうしたことから、拠点の鷺宮地域に安心して宿泊できる施設を設けようとの機運が高まり、同商工会が全面協力。鷺宮神社から500坪ほどの場所にある鉄骨2階、延べ床面積約426平方坪の二元電器店舗を賃借する契約交渉も手助け

●棚にフィギュアを置くなど、宿の部屋の構想を膨らませる若林さん●神社の鳥居前に集まる「らき☆すた」のキャラクターら(©美水かがみ/角川書店)

「らき☆すた」 幸手市出身の漫画家・美水(よしみず)かがみさんが手掛ける4コマ漫画。個性的な女子高校生らの日常生活がコミカルに描かれている。2007年4～9月にアニメ化されテレビ放送されると、舞台の一つとなった鷺宮神社には多くのファンが訪れるようになった。正月三が日の参拝客も増え続け、06年の約9万人から、今年は約47万人にまで膨れあがった。

した。構想では、居住空間に使われていた2階の5部屋を、相部屋での宿泊に利用。風呂やトイレもあり、定員は15人程度。随所に遊び心をちりばめて、「アニメの世界を疑似体験できるようにしたい」(若林さん)という。

問仕切りがない1階は「萌の駅」(仮称)と名付け、アニメによる地域おこしを行ってきた鷺宮地域の歴史を写真パネルなどで紹介するほか、美少女キャラクターグッズ、地元の特産品、農産物などを幅広く展示販売する予定だ。運営は若林さんのほか、

tsukasa-ks.jp  
**看板**  
制作施工  
048-431-2937

友人や家族らも手伝う。若林さんは「宿泊料は低く設定したい。できるところは自分たちでやって出費を抑え、多くの方に楽しんでもらえる場所になりたい」と意気込んでいる。同商工会の吉岡憲一事務局長(61)は「観光客が増え、商店街への人の流れも期待できる。地域のためにも、事業を成功させてあげたい」と話している。

